

【市野雅彦】展

2021年4月11日③～6月20日③まで

【開催日】水・木・土・日曜日11時～16時（入館は15時30分まで）（休館日）月・火・金曜日 ●入場無料
【会場】緑ヶ丘美術館・本館 ↓ 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘273-110
【URL】: <http://mam-museum.com> （お問い合わせはFAXで） FAX・0743-867880

MASAHIKO 「丹波から TAMBA へ」 ICHINO

MASAHIKO ICHINO, 2021 CERAMIC ART EXHIBITION
AT MIDORIGAOKA ART MUSEUM IN NARA, JAPAN

古丹波の里、立杭で生まれ、余すところなく自然の恵みを享受して育った市野雅彦。その土地の土と向き合い、土に委ね、土に添う。陶芸家としての市野雅彦は、奇をてらうことなく土に導かれ、自らの魂をそこに込める。

土は水と出会い姿を現し、火と出会い気色をとどめる。無機質の土塊に命が宿る。無垢の造形に込められた市野雅彦の創造の世界観をお楽しみいただけます。



MAM Collection



Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

T A M B A

MASAHIKO ICHINO, 2021 CERAMIC ART EXHIBITION AT MIDORIGAOKA ART MUSEUM IN NARA, JAPAN

△上記作品：〈無題〉



〈Untitled〉

MASAHIKO ICHINO

丹波市野雅彦展

日本陶芸の発祥、六古窯の一つ「丹波焼」の地に生まれ、穴窯の灰釉焼締から陶彫作品まで表現力には目を見張るものがある。丹波の土と伝統の技を伝承した素朴な造形を基礎に、市野雅彦は、独特の陶芸作品を生み出した。現代陶芸に名を刻む彼の作品は、2006年日本陶磁協会賞を受賞。以降、現在も注目され高い評価を得ている。作家自らが掘り出した丹波の土にどのような命が宿るのか。新作は、ぜひ会場でご覧ください。



〈絆〉

展覧会テーマ：「丹波からTAMBAへ」は、作家の産土の地・丹波を原点にした陶芸が、モダンな現代陶芸に昇華した流れと、次なる創作へ移行する新しいTAMBA焼をイメージしています。

〈線紋器〉



〈丹波水指〉



〈線紋器〉



〈丹波イッチン城紋土埴〉



〈彩泥器〉



〈丹波赤ドベ茶器〉

●市野雅彦 (いちの まさひこ)



【作陶歴】

- 1961 兵庫県丹波篠山市に生まれる
- 1995 日本陶芸展 大賞－秋宮陶杯
- 1999 日本の工芸「今」百選展（三越エトワール、パリ・フランス 他）
- 2000 茶の湯－現代の造形展（ヘルシンキ市立美術館・フィンランド）
国際陶芸交流展（中国美術館・北京）
- 2002 アジア国際現代陶芸展（台北県立鶯歌陶芸博物館・台湾）
- 2006 日本陶磁協会賞
- 2010 現代の茶－造形の自由（菊池寛美記念 智美術館、東京）
現代工芸への視点－茶事をめぐって（東京国立近代美術館工芸館）
- 2011 兵庫県文化賞
- 2015 近代工芸と茶の湯（東京国立近代美術館工芸館）
市野雅彦－軌跡、丹波にて（兵庫陶芸美術館）
- 2016 うつろのかたち－市野雅彦・陶展UTUWA（パミタミュージアム、三重）
土のおもむくま－市野雅彦展（LIXIL ギャラリー、東京）
近代工芸と茶の湯Ⅱ（東京国立近代美術館工芸館）
焼締－土の姿容展（国際交流基金、国外12カ国巡回）
- 2017 三越美術110周年 HORPS 次世代百選展（日本橋二越本店）
茶陶の現在－2018 萩（山口県立萩美術館・浦上記念館）

◎パブリック・コレクション

外務省国際交流基金、ブルクリン美術館（米国）、ニューオリンズ美術館（米国）、クロッカーアート美術館（米国）、ロサンゼルスカウンティラックム（米国）、東京国立近代美術館、兵庫陶芸美術館、東広島市立美術館、滋賀県立陶芸の森、田部美術館（島根県松江）



MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10
FAX.0743-85-7880 [URL] <http://mam-museum.com>

交通アクセス

- 公共交通機関：〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または〈近鉄生駒線〉（近鉄奈良線）で「生駒駅」下車。
生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス「中薬地二丁目行き」バス乗車→「新旭ヶ丘バス停」下車、徒歩すぐ。
- ※ 当美術館には駐車場はございません。

